

地球研メンバーが企画したセッション一覧

	関連プロジェクト等	セッションID	タイトル(日本語)	タイトル(英語)	役職等	氏名
1	授賞式:5月27日		JpGUフェローの顕彰			安成 哲三
2	研究推進戦略センター	U-05	Future Earth – 持続可能な地球へ向けた統合的研究	Future Earth – The Integrated Research for Sustainable Earth	共同コンビーナ	谷口 真人
	口頭発表:5月25日	世界の地球環境研究はICSU/ISSC主導で2014年末までを目処に Future Earth 計画の旗の下で抜本的に再編成されつつある。地球の営みと地球表層に生起する地人関係や自然災害を含む諸事象を主たる研究対象とする地球惑星科学にとって、Future Earth 計画への貢献は全人類的使命である。その使命をわが国の地球惑星科学コミュニティとしてどう果たすべきかを議論する。				
3	研究高度化支援センター	H-TT33	未来の地球環境と社会のための新しい情報基盤を構想する	Designing a new information infrastructure for future global environment and societies	代表コンビーナ 共同コンビーナ	近藤 康久 石井 励一郎, 中野 孝教, 安富 奈津子
	口頭発表:5月27日 ポスター発表:5月27日	地球環境情報のデータ相互運用をめざす大規模学術プラットフォームとしては、国際的な取り組みである全球地球観測システムGEOSS(2005-2015年)や日本の地球環境情報統融合プログラムDIAS(2006年-現在)などがあり、地球観測ビッグデータの統融合を実現してきた。とはいえ地球環境研究は局地規模から地球規模におよぶ多様な分析スケールと、自然科学だけでなく人文・社会科学も含めた多様な構造のデータを取り扱うので、統合的な解析を進めるためには技術的・制度的に解決すべき課題も多い。社会の多様なステークホルダーとともに地球社会の未来に向けた持続可能な発展に資する新たな環境知を発見・提案するための統合的地球環境研究プログラムFuture Earthが2015年より本格的に始動する。これをふまえ、本セッションでは総合的な地球環境研究に向けた情報処理技術の活用に関する取り組みを領域横断的な視点から俯瞰することを通じて、上記の課題を克服して多様な研究フィールドから環境知を紡ぎ出すための方策を議論する。地球環境情報に関わる研究発表の応募を歓迎する。				
4	研究高度化支援センター	H-TT31	環境トレーサビリティ手法の新展開	New development of environmental traceability methods	代表コンビーナ 共同コンビーナ	中野 孝教 陀安 一郎
	口頭発表:5月27日 ポスター発表:5月27日	現代社会は、自然界に存在するほとんどの元素を利用している。それをもたらす資源の持続的利用と環境に調和した社会の実現が叫ばれて久しいが、環境全体の質的変更に伴う人間圏の生存リスクは複合的に拡大している。国際科学者会議は、地球環境に関する国際共同研究をFuture Earthとして統合し、人間環境安全保障社会の実現に向けて、人文社会科学を巻込んだ革新的な自然科学の創出を強く求めている。自然環境の各要素や人間のつながりを診断・追跡する手法とその社会での広範な適用が必要になってきた。天然物や人工物を構成する各元素は、大気や水、生物などの地球の各圏および人間社会や人体の中を形を変えて移動している。多元素の濃度とその安定同位体比の情報は複雑な物質動態の追跡に有効であり、生態系サービスや大気水循環、生活や健康など人間を対象とする諸研究に利用されている。Future Earthの実現には、各分野で発展してきた各手法の統合とエコラベリングやモニタリングなどの社会実装が不可欠である。こうした予防原則に立脚し、環境全体のトレーサビリティシステムの学術基盤の実現に向け本セッションを申請する。				
5	谷口プロ	A-CG33	陸海相互作用-沿岸生態系に果たす水・物質循環の役割-	Land-Ocean Interaction -Water and material cycle for coastal ecosystems-	共同コンビーナ	山田 誠
	口頭発表:5月27日 ポスター発表:5月27日	陸域から河川水や海底湧出地下水を介して供給される物質は沿岸海域の生物生産過程に不可欠である。本セッションでは、陸域および沿岸域の水・物質循環、沿岸生態系、水産資源等の知見を学際的に取り上げ、沿岸域の高い生物生産力や生物多様性を生み出す仕組みを陸海相互作用の観点から総合的に議論したい。テーマは、陸・沿岸海域の水・物質循環、沿岸の水産資源・生物多様性など。その他、水と沿岸生態系の連環に関する研究であればこれを歓迎する。				
6	研究高度化支援センター	M-GI36	地球惑星科学におけるオープンサイエンスデータをめざして	Toward Data Sharing and Open Scientific Data in Earth and Planetary	共同コンビーナ	近藤 康久
	口頭発表:5月28日	日本地球惑星科学連合ではこれまで、情報科学、データマネジメント、データシステム、データベース、ソーシャルネットワークなどのデータや情報に関連したセッションが開催され、地球惑星科学におけるデータ・情報活動についての議論が行われてきた。本セッションでは、こうした活動を行っているグループ・コミュニティ間の情報共有を通じて、地球惑星科学の発展に寄与する新たな切り口や分野横断的な活動についての議論を深めたい。一方、ジャーナルのオープンアクセス義務化と並行して、研究データオープン化の議論がICSU-WDS設立(2008年)、G8オープンデータ憲章・RDA設立(2013年)などの節目を経て活性化している。個別のデータ公開や情報技術活用にとどまらず、オープンサイエンス、また科学と社会の関わりといった新たな研究のとらえ方を視野に入れた議論が進められている。地球惑星科学研究コミュニティとして、我々は研究データ公開をどうとらえ、どのような課題があるか、どう貢献できるのか、といった視点を含めて、科学データ態勢の国際的な動向を踏まえた議論を行っていきたい。				